

会議名 平成23年度第1回ニセコ町環境審議会

開催日 平成23年 5月20日	会議時間	開会 PM 2:00 閉会 PM 4:00
会議場所 ニセコ町役場第2会議室	記録者 企画環境課環境エネルギー係	
出席者		
欠席者		

会議日程

- (1) あいさつ
- (2) 委嘱状交付
- (3) 役員について
- (4) 次期ニセコ町環境基本計画策定について
- (5) 質疑

会議内容

<p>1. 茶谷課長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none">・町長出張のため、茶谷課長があいさつ～審議会設置条例の説明、等・審議委員から意見：資料の量が膨大だと審議が難しいので、できるだけ細かく内容を分けて審議会を行ってほしい <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. 委員自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none">・各委員が、審議会に臨む問題意識等を披歴した <p>4. 審議事項</p> <p>(1) 役員について</p> <ul style="list-style-type: none">・ニセコ町環境審議会設置条例に基づいて、会長、副会長を互選により選任→会長：水上武史氏→副会長：吉川洋子氏 <p>(2) 次期ニセコ町環境基本計画策定について</p> <p>①スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局から説明（別紙資料） <p>②現行の基本計画について簡単に説明</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局から説明（別紙資料） <p>③次期計画策定にあたっての基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none">・計画期間、策定フロー、評価、意見、評価手法などについて、事務局から説明 <p>④第5次ニセコ町総合計画における環境意識の位置（参考資料）について</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケートで環境7項目について聞いた結果を、満足度と重要度の軸で散布図にまとめ

た。

- ・土地利用、緑環境の保全が評価低くかつ重要視されているので、この二つの評価をあげるべき。
- ・全町の分析結果に対して、地区別に分けた分析結果では、地域ごとに特性が出ている。
- ・環境をまちづくりの軸とすることについて、全体では48%が望ましいと言っている。それに対して、農業の関係者は、環境だけでなくバランスを取ることが望ましいと。
- ・まちづくり全般の中で環境は、評価は低いけど重要度も低く考えられている。

【質疑】

Q：このアンケートは、いつ行ったか？

A：昨年11月から12月に実施。町民から無作為で1500人対象、800余人の回答数

Q：生業によって回答が違うとのことだが、属性による偏りはないか？

A：サンプルと母集団との間に大きな隔たりはない、ほぼ誤差の範囲内。

Q：地球温暖化防止より原発事故の方が深刻なので、温暖化防止目的だけの計画ではだめではないのか？

A：現計画は水とゴミを中心に扱っているが、地球温暖化防止と原発についてはこれからの議論

(3)ニセコ町地球温暖化防止計画(H23～)等について

- ・事務局から説明(別紙資料)

【質疑と意見】

Q：温暖化対策の数値の算出基準はどうなっているのか？

A：国の策定マニュアルに基づいて、案分法で算出している

Q：環境基本計画の前に温暖化防止計画が策定されたというのは、順序が逆ではないのか？

A：温暖化防止計画は随時見直していくので、整合性は確保できる

Q：農業バイオマスについてのニセコ町の考え方は？

A：堆肥センターを軸に考えていき、農業残さもバイオマスとしての活用を検討したい

Q：原発事故後は政府の温暖化防止政策が不透明なので、計画策定は先に延ばしても良いのではないのか？

A：町としての考え方を独自にまとめていくことは、意義があると考えている

Q：温暖化防止は住民も参加するが、数値目標の実現には財源も必要なはずだが？

A：再生可能エネルギーについては国も取り組むはずなので、町も柔軟に取り組む

Q：CO2の削減だけでなく、吸収源の木を植えるなどの方針も必要ではないか？

A：みんなで考えていきたい

O：水源地を守るためにも森を守るべきで、木を植えることに優先順位を付けて取り組む必要がある

Q：カペラなどの大型開発には、きちんとした環境アセスが必要

A：水道水源や地下水保全などについて、周辺の土地確保なども今後取り組む

O：災害時にも飲み水が確保できるよう環境保全に取り組むべき

O：環境の重要分野でノウハウのある人が町内にはいるので、人材活用や人材育成に取り組むべきだ

O：「環境リゾートニセコ」は良い理想像なので、環境保全型の農業と観光を次代に引き継ぎたい

○：環境の保全を阻む要因は、結局はみんなの心の中にある。しっかりした意識で取り組む事が必要

○：ごみのポイ捨てをなくするためも、意識改革が不可欠だ

○：条例では、地下水の取水については規制があるが、排水時や水質について有害物質の有無などの規制がないので、今後検討すべき